

ゆきあかりの会 お知らせ No.74

2016年11月27日



♡ゆきあかりの会の集いへご参加くださった皆様へ♡

急に寒くなってきましたね。皆様、体調を崩されていませんか？

ちょっと前まで、「暑いね、暖かいね」と言っていたのですが、寒さの訪れはあっという間ですね。考えてみれば、もう今週後半から12月なのですね。

皆様の中には、時間の流れや季節の流れを感じられない方もいらっしゃると思います。時間が『あの日』で止まっていられる方も…。

周りや社会はどんどん前へ進んでいっているのに、「自分だけが取り残されて…」という思いになっていらっしゃる方もおいでになると思います。

『前へ進むこと』、『前向きに生きること』はとても大切です。

でも、それを目標にしてしまうと、とても苦しくなったりしませんか？

とても生きづらい、途方もなく苦しい日々を懸命に、必死に生きていく中で、いつか…気づいたら、「なんか気持ちが前を向けるようになった」とか、「これからのことを考えられるようになった」時が必ず、やってくると思います。

《目標》ではなくて、《結果》として、皆様が感じられる時がやってくると思います。

いつか…必ずやってくる『その時』を、引き寄せることができるご自分を信じて欲しいです。



★次回のゆきあかりの会の日程

【日程と会場】

第66回 2017年1月8日(日) 昭和生涯学習センター 3階第3集会室

〒466-0023 名古屋市昭和区石仏町1-48 (地下鉄鶴舞線及び桜通線「御器所(ごきそ)」駅下車)

☆ 会場への交通案内は次ページの地図をご覧くださいね！！

【時間】 13時30分に開始し、遅くとも16時前までには終了致します(受付; 13時15分～)。

【ご参加のお申し込み方法】

① 参加のお申し込みは、**2日前の金曜日までに**、事務局:近藤宛てにお申し込みください。

2回目以降の方も、出席者数を把握する為にご連絡をくださいね♡

② 参加費はお一人1000円です。当日、会場の受付でお支払いください。



《昭和生涯学習センターへの案内図》



【交通機関のご案内】

◆地下鉄鶴舞線及び桜通線
「御器所」駅下車
②番出口から南へ300M
③番出口から南東へ300M

◆集い開始：13時30分～
(受付開始：13時15分～)

◆個人住宅やマンション等が
並ぶ街の中にある
3階建てのレンガ色(茶色)
の建物です。



親を亡くした子供達とその保護者の集い

『たんぽぽのつどい2017』のご案内

病気や事故、自死などで親を亡くした子供達とその保護者が集う『たんぽぽのつどい2017』が、来年3月に愛知県内の公的な宿泊施設を使用して開催されます。

開催するのは、『たんぽぽ実行委員会』の東海地域の大学生や専門学校生達です。彼ら学生達の多くも、親を様々な原因で亡くした遺児達です。

開催日時：2017年3月18日(土)～20日(月・祝日)の2泊3日

1泊2日、日帰りのご参加も大丈夫です

お問い合わせ先：リングA

e-mail ringa_nagoya@yahoo.co.jp

代表 河田あかねさん(三重大学2年生)



喪失と音楽Ⅲ — 孤独を慰めた音—虫の音 —

恋の歌と死別の歌はとてもよく似ています。

どちらも、喪失からくる情緒的な苦しみ＝グリーフを表現しているという点で共通点があり、失恋の歌か死別の歌か区別のつかない曲は、昔も今も多くあります。

今回は、去っていった恋人を待つ歌とも追悼の歌とも言われている、「狭蕙(さむしろ)」という曲をご紹介します。

「狭蕙(さむしろ)」 作曲…在原句当 作詞…不詳 作曲年代…十九世紀

〈歌詞〉

去年(こぞ)の秋、散りし梢はもみぢして、いま、将(はた)峰に有明の、月日ばかりを数へても、まづに甲斐なき村時雨、時しも分かず降るからに、色も褪せつついつしかに、わが袖のみや変るらん。

鳴く音を添へてきりぎりす、夜半の枕に告げわたる、嵐の末の鐘の声、結ばぬ夢も覚めやらで、ただしのぼる音なりけり。

狭蕙とは、寝るときに用いる敷物(幅の狭い蕙)のことで、現代のイメージでいうなら、シングル布団、といったところでしょうか。

「秋の夜の一人寝」「ままならない世の中」などのイメージとむすびついて、古典の中で数多く使用されてきました。

今回も現代詩にアレンジしてご紹介します。



【現代詩アレンジ】

去年の秋 散ったはずの紅葉の梢が 今年も紅く 色づいた
あれからもう 一年経ったのね 月日ばかりを数えても ひたすら待っていても あの人は来ない
気まぐれに降る 村時雨 その雨音が あの人の足音に聞こえて
ああ やっと 来てくれたのねと そのたびに 何度がかかりさせられたことか
一雨ごとに 紅葉と同じく 私の心も 色あせてゆく
こんなに泣いたら カーディガンの袖も 涙で色あせてしまうんじゃないから
シングルベッドに 真夜中 独り 目が覚めたら 泣いていた
コオロギも 鳴いてくれていたわ
眠れない夜の 枕元に聴こえてくるのは 嵐が止んだ音 そして 静寂の空に響く 暁の鐘の音
途切れた夢 夢に見たあの人
まだあきらめきれない 昔のことばかり 思い出している

うううと泣いている私に、リリリと鳴いてくれていたコオロギ。
救いのない孤独な夜、唯一寄り添ってくれていたのが虫の声だったのでしよう。



前回のゆきあかりの会の集いでは、「暑いですね」が挨拶代わりでしたが、今回は「冷えますね」とか「寒くなりましたね」と…。僅か2か月違いなのに、季節はあっという間に冬らしくなりましたね。

年々、秋が短くなっている印象です。日本の四季は無くなってしまおうのでしょうか？

私の職場では既に風邪が流行り始めています。皆様、どうぞ健康に気を付けてくださいね。 近藤浩子

<ゆきあかりの会 事務局>

代表 近藤浩子(臨床心理士)

FAX 020-4669-4206

Phone 090-3909-4515

e-mail yukiakainokai@yahoo.co.jp

<ゆきあかりの会>ホームページ

<http://will.obi.ne.jp/yukiakari/>

